

レヴィナス『存在するとは別の仕方』刊行 50 年、

リオタール生誕 100 年記念国際シンポジウム：

多島海・漂白——別の仕方

開会の辞

合田 正人

本日は、リオタール生誕 100 年ならびにレヴィナス『存在するとは別の仕方』出版 50 年を記念する国際シンポジウムにお集まりいただき、誠にありがとうございます。私はこのシンポジウムの企画者であります、明治大学文学部哲学専攻の合田正人でございます。

私からの突然の呼びかけに快く応えていただいた登壇者の方々、発表原稿の翻訳をご担当いただいた方々、会場の設営と運営をお願いした方々、本シンポジウムの実現にご尽力いただいた全ての皆様に衷心より御礼を申し上げます。本日は何卒よろしくお願い申し上げます。もとより、100 点満点ということはありませんが、ここに集われた皆さん一人一人が何か得るところがございましたら、主催者としてこのうえもない幸せでございます。

本シンポジウムは、私が属しております MIPs〔明治大学哲学研究所〕で、海外からの研究者招聘につきましては佐藤達夫教育研究振興資金を活用させていただきました。函館にお住まいになり、旅と芸術、文学と哲学をこよなく愛された故佐藤達夫氏には、今回のみならず、創設前夜から終始、哲学専攻を強力にご支援いただきました。ご冥福をお祈りしますと共に、改めて心より感謝申し上げます。

ひとつ残念なお知らせがございます。レヴィナス/リオタール研究のまさに第一人者であられるパリ第 10 大学のフランソワ＝ダヴィッド・セバー教授、私の無二の親友でもあります。来日直前に緊急外科手術を受けることになり、誠に残念ながら、来日を断念せざるをえませんでした。オンラインでの参加もかなわない状況です。セバー教授からは二本のテキストが送られて参りましたので、そのひとつを、僭越ながら合田が代読させていただきます。どうかご了承ください。

(2024 年 7 月 13 日)

*誠に残念ながら、2025 年 7 月 25 日、セバー教授がご逝去されました。葬儀は 8 月 1 日、パリのペール＝ラシェーズで執り行われました。『限界の試練』というタイトルに魅かれて、セバー教授の博士論文を注文し、それが届いた時、私は即座にその翻訳を決意しまし

開会の辞

た。翻訳の作業は困難を極め、2013 年にやっと拙訳を世に問うことができたのですが、その前年、パリでお会いして以来 13 年、セバー教授とはほぼ毎年パリ、スリジー＝ラ＝サル、東京、大阪でお目にかかり、そのつど、このうえもなく幸福な時間を過ごすことができました。最愛の友人はおまえにとって誰かと問われれば、私は躊躇なく、セバー教授、いやフランソワの名を挙げるでしょう。彼との交流は、「友情」(amitié)というものについての私の考えを根底から変えるものでした。2025 年 3 月 11 日夜、パリのアルジェリア・レストラン「アトランティッド」で会ったのが最後になりました。身体の麻痺が続くなかアルジェリアについて書いた、と云うのです。そしてそれが *Ses vies d'Afrique* というタイトルで近々出版予定と聞きます。フランソワの父親はアルジェリアで暮らすユダヤ人でした。が、フランソワは、フランソワ＝ダヴィッドは…。*Ses vies d'Afrique* とはどういう意味なのでしょう。ひとり夜道を帰っていく彼の後ろ姿が忘れられません。心よりご冥福をお祈りいたします。ありがとう、フランソワ！